

【事例発表】

団体名：(特非)神戸定住外国人支援センター

＜団体紹介＞

私たちは地域に暮らす多様な文化背景を持つ人々が
「ともに生きる」ことができる社会に向け、
活動する民間の非営利法人です。



URL: <http://www.social-b.net>

お問合せ ☎078-612-2402

E-mail: kfc@social-b.net

日本語プロジェクトまで

＜事業実施概要＞ 「ゆりかごから墓場まで」私たちは地域密着でマイノリティの支援をしています。

高齢者支援	日本語学習 支援	子ども支援	相談	民族文化の 育成	調査・研究	関連機関へ の提言
-------	-------------	-------	----	-------------	-------	--------------

★日本語学習支援

・生活日本語クラス

講師とボランティア数名、複数の
学習者のクラスです。生活に必要な
情報、身近な話題を生の日本語で
話し合っています。

個別学習の時間もとっています。



★世界文化交流

- ・お茶会
- ・世界のアルファベット
- ・コラージュ発表会
- ・スピーチ会
- ・料理交流会 etc.



★支援者向け

- ・研修会
- ・教室間の連携会議
- ・シンポジウム



★日本語学習コンテンツや記録簿の作成

- ・生活日本語「なでしこジャパニーズ」ⅠⅡ
- ・学習記録簿

学習者が書く学習記録簿を作成しました。

目的①自分の学習を記録してみる。

目的②教室間でその学習記録簿を共有する。

事業実施概要

事業名称	神戸生活日本語・学習記録簿普及推進事業			
地域の課題	神戸市内には日本語学校や日本語教室が数多くある。以前から生活者は複数の日本語教室に何年も通っているが、十分に上達していないケースも見受けられる。多くの教室があるが、教室同士の連携がとれていないという課題がある。			
事業の目的	「生活日本語」の考え方は概ね広がってきているが、日本語を中上級レベルに引き上げていくために必要な基本文法との兼ね合いや漢字学習、発音の日本語らしさが課題として見えてきた。その課題に取り組むこと、具体的には入門時から中上級までを見据えた学習支援の方法や、学習者自身が自主的に学習に取り組んでいく支援体制を考えていく。また学習記録簿を効果的に使えるようにし、広げていく取組をする。			
	取組1		取組2	
	名称	「生活日本語」クラス	名称	世界文化交流と日本語教室
	目的	生活に必要な日本語と読み書き会話を含めた日本語学習を行う	目的	地域住民と学習者での「文化交流活動を通じ日本語での交流の力をのばす
	内容	前半は、全体で会話学習やテーマ学習を行い、後半は個別にニーズに合わせた学習を行う。 学習記録簿に記入してもらい、主体的に学習すること、何を目標に学習しているかをいつも意識してもらうようにする。	内容	文化交流活動を通して、日本語の学習、および日本文化の学習を行う。イベントを共同で企画し運営したり、自国の文化や得意なことを皆の前で表現する取り組みを行う。日本語を使って作業や発表を行う事によって、実際に使う場にもなる。
	対象	入門・初級・中級レベルの学習者	対象	地域の日本人、外国人住民
	時間	1回 2時間×190回(全380時間)	時間	1回3時間×11回(全37時間)
	人数	82人	人数	111人
	取組3			
	名称	学習記録簿と参加教室の連携を発展させる取組		
	目的	2013年度に作成した学習記録簿の普及。学習記録簿をもって学習できる参加教室の連携を発展させる。		
	内容	学習記録簿をさらに使いこなすためにはどうすればいいか専門家の指導の下、研修会や勉強会、会合を行う。		
	対象	日本語教室の支援者		
	時間	1回2.5時間×7回 総時間数17時間	人数	73人
連携体制	8/25に神戸国際協力交流センターと共催で神戸市内外の日本語教室（11団体24名）で集いを、2/20に地域日本語教育を考える取組（13団体38名）を、8/5と3/4に中国残留邦人帰国者支援の日本語教室（3団体）で会議を行った。			
成果と課題	日本語教室や文化交流を通じて支援者学習者との関係の構築ができたこと、学習記録簿を使うことで自分の学習に責任を持つようになったことが成果である。連携の取組では、独立を保ちながら緩やかにつながる形ができた。学習の効果をあげることが、引き続きの課題として残っている。			
参加者の皆様へ一言	生活していく人の視点にたつことを忘れずに取組をすすめています。ことばの教室ですが、ことばより大切なものを共有し伝えていければと日々頑張っています。			